

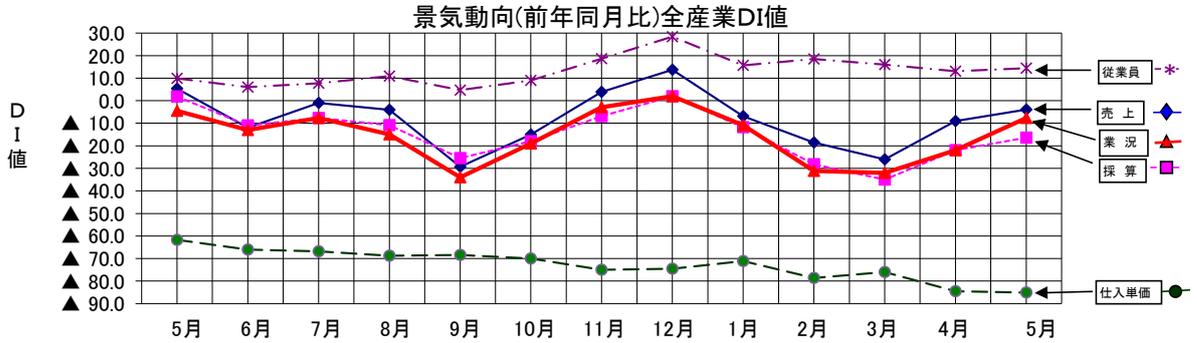
早期景気観測調査 新潟商工会議所管内 5月分

【5月の概要】 原価上昇による価格転嫁が大きな課題となるも、人流回復傾向で今後の売上増加に期待感

業況判断を示すDI値は、「業況」で14.3ポイント改善したものの、「仕入単価」は悪化傾向に歯止めがかかっておらず、人手不足感も高まっている。

寄せられたコメントでは、引き続きロシア・ウクライナ情勢が拍車をかけている仕入原価等の上昇で利益が圧迫されており、今後価格転嫁できるかどうか大きな問題となっている様子が窺える。一方で、まん延防止措置が解除されて以降、人流が活発になってきており、今後の売上増加へ期待する声も聞かれた。

引き続きウクライナ情勢や新型コロナ感染状況を注視しながら、我慢の経営が求められる。



【全産業平均DI】 ※DI(景況判断指数)=(良い割合)-(悪い割合)

	2021年5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	2022年5月
売上	5.4	▲12.0	▲1.0	▲4.0	▲29.3	▲15.0	3.9	13.7	▲6.9	▲18.5	▲26.0	▲9.0	▲3.9
採算	1.8	▲11.0	▲7.7	▲10.9	▲25.5	▲18.0	▲6.9	2.0	▲11.8	▲28.2	▲35.0	▲22.0	▲16.4
業況	▲4.5	▲13.0	▲7.7	▲14.9	▲34.0	▲19.0	▲2.9	2.0	▲10.8	▲31.1	▲32.0	▲22.0	▲7.7
仕入単価	▲61.7	▲66.0	▲66.8	▲68.8	▲68.4	▲70.0	▲75.0	▲74.5	▲71.1	▲78.6	▲76.0	▲84.5	▲85.1
従業員	9.9	6.0	7.7	10.9	4.7	9.0	18.6	28.4	15.7	18.5	16.0	13.0	14.4

- ・プラス幅が増加したDI値：従業員1.4ポイント（人手不足局面へ）
- ・マイナス幅が減少したDI値：売上5.1ポイント、採算5.6ポイント、業況14.3ポイント
- ・マイナス幅が増加したDI値：仕入単価▲0.6ポイント

向こう3か月間の先行き見通し

	売上(受注・出荷)	採算	業況	仕入単価	従業員
3月	▲7.0	▲17.0	▲24.0	▲60.0	20.0
4月	▲5.0	▲16.0	▲15.0	▲71.0	16.0
5月	2.9	▲16.4	▲12.5	▲67.3	16.4

- ・見通しが改善したDI値：売上7.9ポイント、業況2.5ポイント、仕入単価3.7ポイント
- ・見通しが悪化したDI値：採算▲0.4ポイント
- ・プラス幅が増加したDI値：従業員▲0.4ポイント（人手不足局面へ）

【業界から寄せられた主なコメント】

建設業	設備機器	コロナ禍で機械及び部品の仕入れ価格高騰が問題になっている中、ウクライナ問題でさらに悪影響を懸念。
	リフォーム	前年と比較してコロナの影響は少なくなってきたが、原価アップを価格転嫁させることが急務である。
製造業	機器	鋼材他原材料の高騰や納期の遅れがさらに進む傾向。顧客の要請に応えられない。
	菓子	様々な原材料の値上げにより、価格転嫁が希望通りなされるかが今後の大きな課題。
卸売業	贈答用品	県外往来が可能となり人の動きが活発になってきたことで売上増が見込めそうである。
	青果	天候に恵まれ順調な出荷が見込まれる。感染者減少傾向による人流拡大、外食需要の増加が期待される。
小売業	印鑑・印刷	ロシア情勢は原材料価格上昇に影響するが、コロナの影響が緩和されれば売上回復に向かうと思う。
サービス業	看板	若い人材の確保がまったくできておらず、人材不足の状態。現状の態勢で事業継続の方法を模索中。
	警備	各種イベント開催で売上は回復傾向。しかし、原油高騰が利益を圧迫する形となっている。
	タクシー	コロナ禍の影響は大きく、当業界は過去に体験したことのない程の悪い状況にある。